

新春

平成24年 年頭のごあいさつ

田村市議会議員

菅野 善一



田村市長

冨塚 宥暲



ゆるぎなき復旧復興の道を

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
東日本大震災から九カ月余が過ぎました。生まれ育った地域を離れ、言葉にならない苦渋に満ちた避難生活を余儀なくされている市民の皆様のご心痛が癒されないうまま、新しい年を迎えなければならぬことに暗然たる思いですが、ありのままの現実を重く受け止めつつ、年頭にあたり、田村市を復興することこそが何よりも大切だと改めて心に刻み、皆様とともに全力で取り組んでまいります。
未曾有の大地震は、貴重な財産と安穏な生活を一瞬にして奪いました。そして自然を前にして人間の営みがあまりにも小さく、一人一人の人命がいかに大きく尊きものであるかを思い知らされました。
加えて、まさに国難と言うべき原発事故は非常事態が続き、放射線の恐怖と、風評というもう一つの見えない不安の広がりは未だやまず、一刻も早い収束、生活再建支援と適切な補償を国および東京電力に断固として求めてまいります。
その一方で、全国からお寄せいただいた多くの物資や義援金、寝食を惜しまず献身的に活動してくださった地元消防団、郡山地方広域消防組合、警察署、自衛隊ならびにボランティアの皆様によるご支援、さら

には各ふるさと会の皆様をはじめとする、郷里を想う温かくも優しい励ましの言葉の数々を振り返れば、これほどまでに私たち田村市民の背中を支えてくださったことに、深厚なる感謝の意を捧げるばかりです。
この身に余るご厚情に応える道はただひとつ、確実に復旧復興を前進させるのみと考えております。
現在の困難な状況から脱却すべく、今後私たちが突き進まんとする復旧復興への道は相当地に長く、時に険しいものであるかもしれません。しかし、この歩みは全ての市民の皆様が心から笑うことのできる、三月十一日以前の生活を取り戻せるその日まで、一日たりともゆるがせにすることができません。
申し上げるまでもなく、私にとって市民の皆様への安心・安全が一番であります。
平成二十四年度予算におきましては、市民の生命と生活を守るべく「復興元年」と位置づけ、皆様のご理解と英知をいただきながら公共施設などの損壊等の復旧はもとより、除染をはじめ放射線対策事業を最優先し、皆様の不安の解消と一日も早い帰還に向け、新しい年が希望の道筋の見える良き年となりますよう、全身全霊を打ち込む所存であります。
ともに一歩ずつ歩んでまいりますよう。

心とむ未来を願って

輝かしい新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。
市民の皆様には、日ごろから議会活動に対するご理解とご協力を賜り、心から深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨年三月十一日、突如、東日本を襲った未曾有の大地震は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらし、多くの犠牲者を出すとともに、東京電力福島第一原子力発電所において発生した原子力事故は、九カ月余りが経過した現在もお、私たちの生活に深刻な影響を与え続けております。

本市には、最大で八千人を超える避難者の受け入れや市内の方々も避難を余儀なくされるなど、平和を享受していた私たちにあって、このような災害を誰が予想したでしょうか。昨年ほど人間に与えられた喜怒哀楽において、悲しみと怒りの多い年はありませんでした。

事態が刻々と変化する中、避難所におけるボランティアや市民の皆様の不眠不休の活動、そして国内外からの心温まる義援金や支援の輪が、大きな「絆」となり、未だかつて経験したことのない困難を乗り越えようと立ち向かっているところでありま

も様々な課題や困難を乗り越えて、心豊かな日々を暮らしに喜びを実感できる地域社会をつくってまいりました。昨年経験した苦しみや試練をみんなの力を合わせて乗り越えていかなければなりません。

一方、私たちは放射能災害について多くのことを学びました。これからも生まれ育った郷土を守り、暮らし続けるためには、恐れられるだけでなく放射能に立ち向かわなければ事態を改善することはできません。

田村市民の生活と健康を守るために、生活空間から早急に放射線を除去する必要があります。
議会といたしましても、一日も早い事態の収束と安穏な市民生活の復興に向けて、東日本大震災市民生活復興対策調査特別委員会を設置し、調査を実施するとともに市当局および国、県、東京電力に対し要望・要請を行っているところであります。

今後、市民の皆様への信頼と負託に応えるべく、安心して、生き生きと暮らすことができるまちづくりに向かって、努力を重ねてまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。
結び、心とむ未来を願って平穏な年でありませう心から祈念して、新年のごあいさついたします。